

進捗状況の概要（1ページ以内）

全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」の円滑な運営のために組織した会議体である運営会議、カリキュラムミーティング、広報戦略ミーティングを開催した。具体的には、全学横断特別教育プログラム推進本部において、月に1回の運営会議を開催して、運営方法や組織体制等の検討、各コースにおけるプログラムの実施状況や課題を共有などに関して、活発な意見交換を行った。また、実施組織において、カリキュラムミーティングは月に1~2回開催し、カリキュラムやシラバスの内容について検討を進め、令和3年度から開講している「ライフクリエイター入門講義」及び「AI ジェネラルスキル基礎ゼミ」、また令和4年度に開講した「AI ジェネラル応用ゼミ」に関するシラバスのフィードバックを行い、それらをブラッシュアップした。さらに、来年度開講する必修科目である「ライフクリエイター実践ゼミ」についてのシラバスを作成するとともに、実施に必要な体制を構築することができた。さらに、月に1~2回広報戦略ミーティングを実施し、プログラムの発信方法について検討し、高校生に向けたマーケティングの戦略や企業に向けた広報・ファンドレイジング戦略について検討を進めることができた（その方法論は現代メディア・マーケティング入門ゼミにおける教育にも活用されている）。このように、カリキュラムミーティング、広報戦略ミーティングといった実施に必要な会議体を組織するとともに、各会議で必要な体制を整えることができた。加えて、令和2年度に設置した「広報・ファンドレイジング室」の活動により、軽井沢町のふるさと納税や寄付の申し込みが行われ、プログラムの持続可能な体制を確保している。

評価体制については、推進本部において、各コースの取り組み状況を報告・共有することで、問題点等を検討する体制が整備されている。また具体的な評価方法として、外部評価委員会を開催して、客観的に評価される体制を整備した。その際、運営会議やカリキュラムミーティングにおいてPDCAサイクルを日常的に行い、これらを取りまとめたものについて、年1回、外部評価委員会による評価を受けるという機能的体制を構築することができた。

学修成果の到達度を①AI ジェネラルスキル、②学際協働力、③社会実装力の3つの能力に分類し、評価を行っていくことで学修目標を具体化させ、横に広いAI人材を育成するため多数の特任教員が授業科目の会議を開催し、シラバスを作成するとともに、すでに開講済みのシラバスについて検討を行った。

また、①AI ジェネラルスキル、②学際協働力、③社会実装力の3つの観点から適切に評価を行うため、各科目についてルーブリックを作成した。さらに、受講生募集のためのリーフレット及びウェブサイト構築し、学生への発信の準備を進め、令和3年度からオープンしたウェブサイトにより、全国的に本事業の取り組みを効果的に発信した。

本事業プログラムとして設定する検証可能かつ明確な目標の達成状況については、軽井沢町ふるさと納税に社会基盤研究所に対する支援メニューが追加され、それに伴いファンドレイジングを行い、寄附申し込みに関する積極的な広報を行った結果、4,637,000円もの寄附が集まった。さらに、G検定の資格をコース終了までに取得することを目指していたが、令和4年度も前年度に引き続き「AI ジェネラルスキル基礎ゼミ」受講生のうち4名がすでに授業期間中にG検定に合格することができ、また「AI ジェネラルスキル応用ゼミ」受講生のうち1名がE資格に合格することができ、いずれも当初の計画を上回ったかたちで成果を上げることができた。

分野横断型の研究実践やAI人材の育成を行うという先進的な事業を持続可能かつ社会全体に波及させていくため、「広報・ファンドレイジング室」の設立や、WEBページの作成を行って、本事業の取り組みや成果を広く社会に発信することができた。